

## Windows クライアント OS

製品ファミリー	エディション	バージョン	集計
Windows	Business	Vista	3
Windows	Home	XP	5
Windows	Professional	7	86
Windows	Professional	XP	3,285
Windows	Professional	NT4.0	2
総計			3,381

Windows XP Professional のインストール率が97.2%を占めています (XP Home、NT4.0と合わせると97.4%)。Windows XP (SP3) のサポートは2014/4/8 (米国時間) で終了します。サポート終了後は更新プログラムを入手できなくなるため、最新バージョンへのアップグレードをご検討ください。

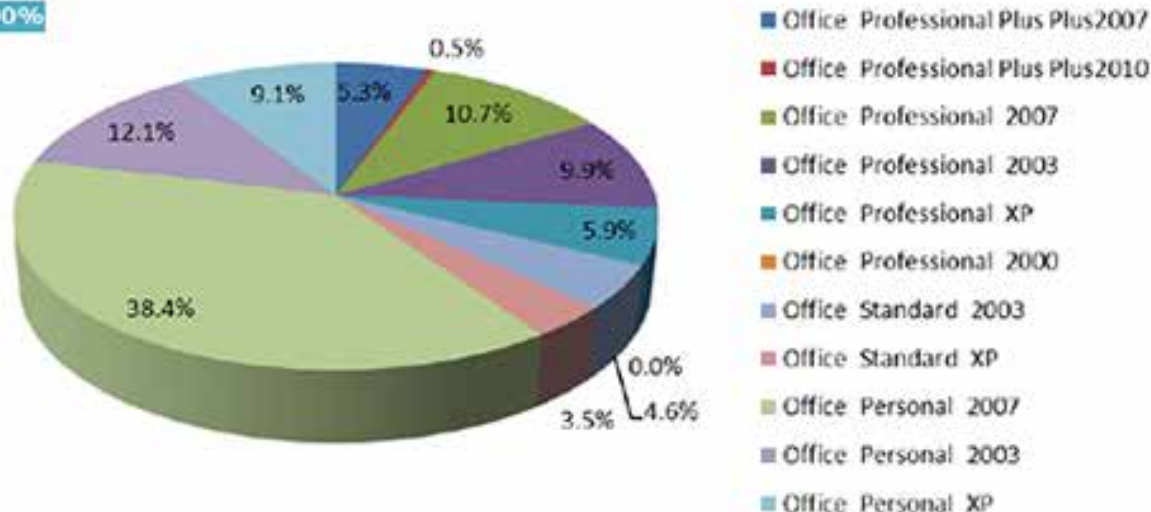


## Office Suite

製品ファミリ	エディション	バージョン	集計	割合
Office	Professional Plus	Plus2010	16	0.5%
Office	Professional Plus	Plus2007	173	5.3%
Office	Professional	2007	352	10.7%
Office	Professional	2003	327	9.9%
Office	Professional	XP	194	5.9%
Office	Standard	2003	153	4.6%
Office	Standard	XP	115	3.5%
Office	Personal	2007	1,265	38.4%
Office	Personal	2003	400	12.1%
Office	Personal	XP	300	9.1%
総計			3,295	100%

- ・ Officeのエディション/バージョンが混在しすぎているため、管理が煩雑になり、管理コストがかかりかかります。
- ・ また、VL以外でリリースされているOffice Personalのインストール率が高いため、組織内のミスライセンス（イメージングやカジュアルコピーなど）の確率が高くなります。
- ・ この組織にはVL購入されたOffice（Office Professional Plus 2010）が存在するため、このメディアを元にミスライセンスが起こる可能性もあります。
- ・ 以上から、非常にリスクの高いインストール状況であるため、Officeの標準化をご検討ください。

## Office Suiteインストール状況



# 3-1.推定不足ライセンス



貴社よりご提出いただきましたマイクロソフト製品のインストール情報、およびボリュームライセンス購入履歴を突き合わせてライセンス遵守状況の分析を行いました。

その結果、ライセンス不足であると判定された製品がございましたのでご報告いたします。

## <不足推定ライセンス>

製品ファミリ	エディション	バージョン	推定不足数	全体のインストール数に対する不足率 (製品ファミリ毎)
Windows	Professional	XP	-183	5.4%
Office	Professional Plus	2007	-10	
Office	Professional	2007	-1	
Office	Professional	2003	-121	
Office	Professional	XP	-187	
Office	Standard	XP	-49	
Office	Personal	2007	-1,069	
Office	Personal	2003	-399	
Office	Personal	XP	-299	59.2%
Windows Server CAL	Device CAL	2008	-103	3.0%
SQL Server 1 Processor	Standard	2008R2	-2	50%
SQL Server CAL	Device CAL	2008	-3,228	100%

・ Office Suite トータルの不足率が59.2%と高い割合になっています。複数のエディション/バージョンで推定不足が検出されています。Office Suiteのうち最も不足率が高いのはPersonal 2007です。

・ SQL Server CAL (Device CAL) で100%の推定不足となっております。本来、CALは直接的・間接的な接続方法を問わず、接続先のサーバーのバージョンに合わせてご購入いただく必要があります。ご参考までに「4-2. 一般的なライセンスの問題」をご確認ください。

詳細は別紙ELP (Effective License Position) をご確認ください。